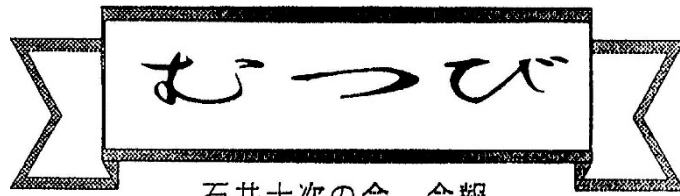


2020年
(令和2年)
7月14日



274号

西都市で守り続ける石井十次の教え

西都市長 押川 修一郎

私たちの西都市には、石井十次先生の「博愛の心」を受け継ぐ茶臼原小学校があります。同小学校は昭和21年に茶臼原国民学校として設立され、翌年に上穂北村立茶臼原国民学校として設立認可されました。

それ以前の明治39年、十次先生は茶臼原に農業小学校を設立され、その後、大正2年に私立茶臼原尋常小学校として設立認可されたと聞いております。この小学校の設立には、大自然の茶臼原において、子どもたちを自由に遊ばせ、学ばせ、働かせたいという十次先生の理想がありました。しかし原野を開墾しながらのスタートには、大変なご苦労があったことと思います。

私は高校卒業後、農業後継者として就農する傍ら、JA青年部などの活動に参加させていただき、宮崎県農協青年組織協議会委員長や全国農協青年組織協議会会長、JA西都監事の要職を経験させていただきました。この間の活動は、人として大きく成長させていただき、このような経験をさせていただいたことに大変感謝しているところです。

そして、地域社会や農業現場の声を行政に反映させたいという思いを胸に、宮崎県議会議員に立候補しました。十次先生におかれましても、海軍士官を目指されていたこともあったとお聞きしております。「国や地域を良くしたい」「人々のために何かしたい」という思いは共通しており、大変感銘を受けたところです。

しかし十次先生は病気を患い、目指されていた海軍士官の道を断念し、帰郷されました。次は「医師になって多くの人を救ってみたい」という思いで医師を目指され、岡山県甲種医学校へ入学。診療所において実習していた際に男の子を1人預かり、そのことが十次先生の児童救済事業のスタートとなりました。その後も子どもは増え続け、十次先生は「三友寺」というお寺の一角を借りて「孤児教育会」（後に岡山孤児院と改称）を設立されました。医師になることと児童救済への思いの間で、大変悩み苦しまれたことと思います。その末、「医師になる人は大勢いても、児童救済をやる人間は自分しかいない」と確信され、生涯を児童救済に捧げる道の選択をされた十次先生にとって、大変大きな挑戦だったことと思います。

「岡山孤児院」は現在の児童養護施設のルーツともいえる児童救済施設です。

十次先生は資金集めなどに苦勞されながらも、子どもたちに教育を施し、2千数百人の子どもたちを手に職を付けさせて自立へと導かれました。十次先生は児童救済などの児童福祉制度充実に尽力された功績が認められ、「児童福祉の父」と呼ばれています。

現在、児童養護施設等の施設サービスなどは、児童福祉の基本法である「児童福祉法」に基づき、行われています。「児童福祉法」は、戦後、困窮する子どもの保護、救済、そして次代を担う子どもの健全な育成を図るため、昭和22年に制定された法律です。昭和26年には「児童憲章」が定められ、児童福祉の諸制度はこれらを基本法にして、広く子どもの最善の利益を保障する観点から発展してきたと言われていています。

私は、それ以前から児童救済などの児童福祉制度充実に取り組んでこられた十次先生の活動が、これらの制定等に大きな影響を与えたのではないかと考えているところです。

さらに、児童虐待や少子化の進行といった新たな課題に対応できるよう平成12年に「児童虐待防止法」、平成15年に「次世代育成支援対策推進法」、平成27年度からは幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。また平成28年には、児童福祉法が大きく改正され、全ての子どもに福祉が等しく保障されることを基本理念とすることが、改めて明記されました。

このように新しい施策が次々と制定されておりますが、虐待相談対応件数は年々増加し、平成27年度には10万件を超え、平成30年度には約16万件となっております。私は子どもにとって安心できる養育環境を保障することが大変重要だと考えており、「子どもは家庭だけではなく地域社会の中で育てる」という認識のもと、社会的に子どもを養育し保護する「社会的養護」の意義と重要性の高まりがさらに重要だと考えているところです。女性の社会進出が進み、共働き家庭が増加する中、未来を担う子どもたちを安心して産み育てることができるよう、西都市としましても地域住民の方々、児童福祉施設、民生委員・児童委員、学校関係者と一緒になって、さまざまな課題に取り組んでいきたいと考えています。

十次先生の社会福祉事業や児童福祉事業における意思是、現在もさまざまなところで引き継がれており、人材育成こそ国の要、長期的視点で人を育てることの大切さを感じているところです。また平成28年第190回通常国会の安倍晋三内閣総理大臣は施政方針演説において、「為せよ、屈するなかれ。時重なればその事必らず成らん」の十次先生の言葉も引用し、十次先生の功績に触れつつ、「挑戦」することの大事さに触れられました。

十次先生の残した教えを守り続けるこの西都市で、「誰もが希望する子育てを実現できる環境づくり」、「魅力的な教育環境整備」に挑戦し続け、国の宝、西都市の宝である子どもたちをしっかりと支えていきたいと思えます。

「忘れられない思い出」 その3 ～児島虎次郎～

(石井十次の長女の夫)

洋画家 児島虎次郎は、実業家 大原孫三郎の奨学生となり、東京美術学校を首席で卒業した。孫三郎の支援で27歳から3度欧州に渡り、自らの絵画修行と西洋の優れた美術作品の収集と公開を孫三郎に提言した。

孫で陶芸家の児嶋塊太郎は、令和2年4月10日付 産経新聞「100年の森」によると、次のように語っている。「児島が油絵を学んだ当時、日本で画家を目指す人たちは本物を見られなかった。あまり美しくない色刷りの図版を見て絵を学んでいた。児島は若い人たちのために、本物を日本に持ってこなければならぬと考えていたようです。」

虎次郎は、モネの「睡蓮」、マティスの「画家の娘」、ピカソの「鳥籠」や、古代エジプトの彫刻等、多数の作品を購入し、日本に送った。なかでも、エル・グレコの「受胎告知」は、今から400年程昔の作品で、世界に数枚しかないという貴重なもので、とても高価だったと伝えられている。今では、奔放で神秘的画風のエル・グレコの「受胎告知」があることで、大原美術館は世界的にも有名である。



【受胎告知 エル・グレコ】

大原美術館は、虎次郎没後、その功績を永遠に讃えようと、収集作品と虎次郎自身の作品を公開するために1930年に大原孫三郎によって創設された。虎次郎の作品は、石井記念友愛社にも数多く展示されている。施設内には、絵画など芸術作品が展示され、子どもたちの心を育てている。

高鍋町美術館は1999年11月3日文化の日が開館した。町立の美術館は全国的にも少ないが、町内外から300点を超す美術品の寄贈、寄託を受けた。

「心」を表現する場、「心の発信基地」として開館した。当日は「プチ・パリ展」と「石井十次展」も開催され、式典には関係者約250人が出席して完成を祝った。石井記念友愛社所蔵でルノワール作のブロンズ像「ココの像」も出品協力されていた。当日は私も町職員として参加し、完成を心から喜んだ。



【アイロンがけ 児島虎次郎】

あれから21年！現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、企画展が変更となっている。大変残念に思うが、代替企画が「高鍋町美術館 館蔵名品選展」【6月2日(火)～8月30日(日)】！！虎次郎の作品もあります。是非皆様のご来館をお願い申し上げます。

大原美術館は「新児島館」(仮称)を令和4年4月に開館予定とある。(産経新聞)今から心待ちにしているファンが大勢いることだろう。数年前に私が虎次郎の作品展示室で、一番印象深く思ったことは、エジプト収集時の虎次郎の写真が、石井記念友愛社の児嶋草次郎理事長(孫)にととても似ておられたことだった。

今でも、私の心に残る「忘れられない思い出」の1つである。

(編集委員 徳地 順子)

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

- 【日向市】三股 晶子
【高鍋町】阿部 美 谷口 良孝
【埼玉県】隅田 雄一
【東京都】永野 泰三

★ご寄付をいただきました（敬称略）

- 【宮崎市】谷口 美喜子 芥川 恵子
黒水 斐子
【延岡市】山崎 きよ子
【高鍋町】大塚 忠興 松永 美代子
【木城町】永田 克巳
【西都市】那須 政治 今井 美富
【えびの市】小崎 久美子
【福岡市】貝島 由香
【佐賀市】吉崎 悦子
【東京都】富田 速人 柿原 明子

★ 5/21～6/20の資料館来館者

団体 石井記念新規職員30人
個人 17人 合計47人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により6月20日までのものとして
います。

★7月の行事

児嶋 琥一郎・登美先生記念式
日時 7月5日（日）16時～
場所 石井十次の墓地

★8月号の通信発送作業

8月11日（火）9時から印刷・製本
12日（水）9時から製本・発送

●なまこ壁

友愛園の北隣に新築された「石井記念のゆり幼児園」、その外観で一番に目を引くのは、「なまこ壁」を模した外壁です。



「なまこ壁」とは、壁面に平瓦を貼り、その継ぎ目に漆喰を高く盛り上げて塗った壁のことで、その盛り上がった部分が海のなまこに似ていることから、そのような呼び名になったそうです。



【なまこ壁】

耐火・防水などの機能にすぐれているため、江戸時代から城郭や武家屋敷、蔵などの壁面に使われてきたとのこと。日本の伝統的な外壁デザインの一つと言えます。

この独特の外観から、「忍者」を連想する園児もいるとか。楽しく、また、とても美しい園舎です。

温かい先生方と、素敵な園舎。最高に恵まれた環境のなか、子ども達は毎日元気にのびのびと過ごしています。

※編集後記

「むつび」巻頭は、西都市長 押川修一郎様に玉稿をいただきました。ありがとうございました。（文責 成合）

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社
後援会「石井十次の会」

☎ 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1
TEL/FAX 0983-32-4612
メール yuuaisya-jyuujinokai@ki-jo.jp